



Tokyo Forum 2019

— Shaping the Future —



Tokyo Forum

2019年12月6日から8日までの3日間にわたり、東京大学にて第1回東京フォーラムが開催された。メインテーマは「Shaping the Future」。特定の国を超えた地球規模の諸課題の解決に向けて、複雑に絡む様々な実態と背景について多角的に議論し、未来を構想することを指した。そこでは、研究、政策決定、そしてビジネスの第一線のリーダーたちが世界中から一堂に会して、講演、対談、6つのセッションを通じ自由闊達な議論が展開された。なお、本会議は韓国学術振興財団(Cheyong Institute for Advanced Studies(CIAS))と共催で実現したもので、日韓の学術交流の上にも大きな意味を持つ。

実空間とサイバー空間が融合するグローバル・コモンスの構築を先導する大学の役割



五神 真
東京大学総長

科学技術が急激に進歩する一方で、地球温暖化や格差拡大など地球規模の課題が深刻化し、世界はますます不安定になっている。いま、我々は世界の多様な特性を丁寧に扱うインクルーシブな人類社会を創りあげなければならない。

昨今の情報通信技術の発展をみるにつけても、有形のモノから無形のサービスへの価値シフトが人類のさまざまな営みに不連続な変化をもたらす。我々が慣れ親しんだ、モノ中心の資本集約型の社会から、知識集約型の社会へとパラダイムシフトが起きている。

デジタル革新で代表される諸技術の発展はむしろ格差を増大させてしまう危険も内包する。自然に任せるだけでは、インクルーシブな未来社会としての

Science 5.0を実現することはできない。高等教育機関としての大学には、長きにわたって培われた学問の蓄積を学び、さらなる新たな知を創り出す場であり、そこに主体的に関わる人材を育成する。未来ビジョンを共有し、とりわけ次世代が社会の課題解決に積極的に関わる契機ともなる大学において、第1回東京フォーラムを開催できた意味は大きい。

信頼性のある自由なデータ流通(DFFT)の議論は、プライバシーや人権の問題と密接にかかわる。Society 5.0では実空間だけでなく、サイバー空間においても信頼や快適さ、公平性が求められる。実空間とサイバー空間が結合したグローバル・コモンス——地球の資源と生態系を包含した概念——の持続可能性を確保し、政策決定者、産業界やNPO・NGOのリーダー、学者、若者を含む全てのステークホルダーが議論に参画し、協力し合える機会を提供するものである。

アジアのリーダーシップ発揮と地球規模の共同体の形成に向けて



チェ・テウオン氏
韓国SKグループ会長、Cheyong Institute for Advanced Studies 理事長

我々が直面する世界において、地政学的関係が日進月歩で変化し、かつてない緊張関係が広がっている。そこでは、単一の利害関係をもち、単一の国だけでは解決できない課題が山積している。だからこそ、我々は互いにアジアのリーダーとして、未来に向かって行動を起こすときに来ている。

このたび、東京大学と我々財団が共に東京フォーラムの第一回を開催できたこの意味は極めて大きい。私たちがアジアから全世界に向けて声を上げねばならぬ時にあり、グローバルな課題に対して責任と高い目標を達成することが大切である。

東京フォーラムを通して、重要なポイントを2つ提示したい。第一に我々は、一つの共同体として真なるコミュニケーションを形成しなくてはならない、ということである。そのためには、我々自身に乗り越えるべき課題があるが、我々共通の経済的、学術的、文化的な関心、利益を今一度確認する必要がある。共に解決策を探り、不要な懸念から脱却すべきである。

第二に、説明責任をしっかりと果たす必要がある。これから我々が取り組むべき理想とされる利益や効果

価値を具体的に示すことが重要である。そのためには抽象的な説明に留まらず、定量的な効果の測定・評価方法を確立する必要がある。例えば、我々は、従来の企業の経済的価値を超えて、社会的な価値と連動し、新たな価値を生み出すDouble Balancing Valuesをグループバランスタンダードとして確立することを目指す。

いま、東京フォーラムを開催する意味が極めて大きいことを今一度強調したい。アジアのリーダーとして、我々の持つ英知を最大限に活用して世界の人人々に感銘を与えようではないか。分裂・分断を超えて、善・正義の価値を共有して行動するグローバルな共同体を形成する時代なのである。



イ・ホング氏
元韓国首相

本会議の開催にあたり、亀岡偉民文部科学副大臣とイ・ホング元韓国首相から挨拶があった。イ・ホング元首相は、1987年の韓国の民主化宣言、88年のソウルオリンピックに言及して、今世の中が再び民主主義の危機にあることへの警鐘を鳴らした。イ氏から、平和でより長き未来につながる新たな日韓関係のあり方について言及があった。

東京フォーラムは、隈研吾教授、レベカ・グリンスパン氏が東京フォーラムのテーマである「Shaping the Future」について「将来に関して悲観的になってはいけない。現状認識を持ってはじめて立ち向かうことができる」と述べ、自身の携わるイペロアメリカ会議と、ラテンアメリカで新しい中流層が生まれている現状について解説。社会構造の変化をチャンスととらえる意義について強調した。



レベカ・グリンスパン氏
Secretaria General Iberoamericana 事務局長、元コスタリカ副大統領

レベカ・グリンスパン氏が東京フォーラムのテーマである「Shaping the Future」について「将来に関して悲観的になってはいけない。現状認識を持ってはじめて立ち向かうことができる」と述べ、自身の携わるイペロアメリカ会議と、ラテンアメリカで新しい中流層が生まれている現状について解説。社会構造の変化をチャンスととらえる意義について強調した。



隈 研吾氏
建築家、東京大学教授



野依 良治氏
科学技術振興機構 研究開発戦略センター長、ノーベル化学賞(2001)受賞



林 毅夫氏
(リン・イーフ)氏
世界銀行 前チーフ・エコノミスト



キム・スンハン氏
高麗大学教授



ヘレン・クラーク氏
元ニュージーランド首相、前国連開発計画(UNDP)総裁



エンリコ・レッタ氏
パリ政治学院 国際関係学部長、元イタリア首相

ビジネス・経済セッション
日韓の未来のために、ビジネスリーダーからの知恵と提言

- モデレーター 小倉 和夫氏 元駐韓 駐日大使
- パネリスト チェ・テウオン氏 韓国SKグループ会長、CIAS理事長
- キム・ユン氏 韓国経済協会会長
- ホ・ユンス氏 GENEALICEO
- 中西 宏明氏 経団連会長
- 三村 明夫氏 日本商工会議所会長
- 佐藤 康博氏 みずほフィナンシャルグループ取締役会長

最初にキム・ユン氏が韓国から見た日韓の経済協力の評価について発表。「世界と日韓の経済は不確実性が高まっている。客観的な現実と議論に基づいて、日でも早く日韓協力があがるべき姿を取り戻すことが必要」と指摘。

それに続いて、中西宏明氏は「日韓はグローバルな経済活動の中で、貫しつてつながっているが、マーケットのストラクチャーが変わってきた。お互いに知恵を持ち合って、経済協力もビジネスの世界ももう一回つくり直していくことが、次の大きな目標」と主張した。

またチェ・テウオン氏は「ICT(情報通信技術)とくに半導体分野では協力しているわけではないが、マーケットシェアをwin-winで高度化した協力関係を築き上げ、プラットフォームつくりも可能である」と示唆。そして三村明夫氏は「これまでの日韓関係を振り返り、足元の問題から目をそらすことなく、今後経済人が取るべき

21世紀北東アジアの地政学的転換と未来

●モデレーター 小谷 真生子氏 経済キャスター

●パネリスト エドウィン・フルナー氏 (アメリカ) 財団創設者

ジョン・ヘイムリ氏 (アメリカ) CIAS所長

藤崎 一郎氏 中韓和平研究所所長

ユン・ヨングアン氏 元韓国外相

張 繡嶺氏 中国社会科学院

エドウィン・フルナー氏は「北東アジアの米国の存在感と北朝鮮の非核化について。ジョン・ヘイムリ氏は、米中の貿易戦争に対する考え方は2派あることを紹介。張繡嶺氏は大きな課題が山積するなか平和が鍵を握っている」と、藤崎 一郎氏は「日本が米中韓と協力をすることで、ユン・ヨングアン氏は主に北朝鮮の非核化に関する課題を提起した。

次世代が描く Shaping the Future、新しい視点・視座



リ・コンホ氏
ENUMA 共同創設者、チーフエン지니어



スズコ子氏
アーティスト、東京藝術大学 デザイン科准教授

日韓で活躍する2人が若い世代にアピールし、共感を広げるために特別講演を行った。スズコ子氏は未来の課題と機会の両方を考えさせるスペースキ ャラティブ・デザイン分野における自身の作品について説明。リ・コンホ氏は、教育の機会を奪われた子どもたちを支援するアプリを使って試験的に行っている、成功したプロジェクトについて述べた。



東京大学の研究最前線の交流の場

広告

志ある卓越。



Tokyo Forum 2019の詳細はこちら <https://www.tokyoforum.tc.u-tokyo.ac.jp/>